

消費材・市場にない価値  
—事故から学び、解決策を得る—

消費材の原点  
—ウイナーの取組み—

業東の常識を覆す試みで  
豚肉の生産から加工・  
流通まで一貫経営を自持した人

平田牧場 新田嘉一 社長 (49)

「良い豚を育てて「無添加」を作ったのに「売れない！」

賞味期限が短いからなあ、価格が高くなるよ

消費者の声

遊佐の米を扱っている小さい生協が東京にあるよ

赤い豚

おいしい豚肉

ほいほい

価格が高くなるよ

生活クラブ 事務所

ボロ...

...のいる雑居ビル

大丈夫か？

たぶんいいよ

東京

1974年 配送開始!

倉庫 工場

生活クラブ センター

寒い時期を選んで2月に実施

組合員へ

いそいで流通の準備にとりかかるので

1973年 岩根理事長と新田社長 対面!

やるだけはやたね

ホ...

無添加ウイナーを

1ヶ月後

ほいほい

生協を合わせても月に25万は

東は東の生協と

25万は

「ウイナーがネバネバしてるんだけど...」

臭いがするのよ

変!

何か

なにが

無添加ウイナー!

ほいほい

事故の大きな原因は配達の冷蔵設備だ。

当面は保存料としてソルビン酸の使用は仕方ないね。

【取組み実現にむけて動き出す!!】

生産工程を見直し、殺菌力を高めるよう生産者に依頼

毎週取り組む

各班必ず5袋以上の注文を約束!

配達には保冷車を持っている生産者に依頼

「食べて、生産者を支えよう!!」

調べよう!!

大事なのは原因をつきとめることだね

「そよね」

「ネットが出たのは無添加の証明だよ」

「RRRRRR」

「臭いがするのよ」

「変!」

「何か」

「なにが」

「なんかが」

「変!」

「何か」

「なんかが」

「なんかが」

「しかし...RRRRRR」

「ウイナーがネバネバしてるんだけど...」

臭いがするのよ

変!

何か

なにが

なんかが

「RRRRRR」

「臭いがするのよ」

「変!」

「何か」

「なんかが」

「なんかが」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「生活クラブにかけよう!」

「事故で終わらせず、それを乗り越えて、取り組みを模索する生活クラブの姿勢に心をゆり動かされ!」

「事故で終わらせず、それを乗り越えて、取り組みを模索する生活クラブの姿勢に心をゆり動かされ!」

「事故で終わらせず、それを乗り越えて、取り組みを模索する生活クラブの姿勢に心をゆり動かされ!」

「事故で終わらせず、それを乗り越えて、取り組みを模索する生活クラブの姿勢に心をゆり動かされ!」

「事故で終わらせず、それを乗り越えて、取り組みを模索する生活クラブの姿勢に心をゆり動かされ!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

「5トンのウイナーが!」

河野栄次組編部長 (現・生活クラブ東京・顧問)

「お客さんと業者」ではない「対等互惠」の関係

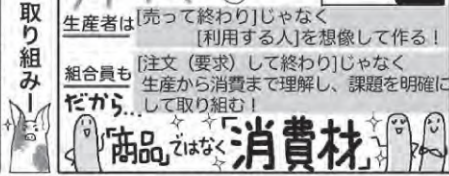
ウイナーの腐敗事故が起きた時、即座に取引中止にならなかったのは、組合員は単なるお客さん意識で事務局を批判しないし、事務局も生産者を一方的に批判しないという土台ができていたからであった。

ウイナーの本格取組みをきっかけに、1974年組合員が直接平田牧場やお米の産直をしていた遊佐町農協（現・JA庄内みどり）を訪ねる「庄内交流会」が始まり、現在に続いている。この旅が、組合員主動の「生肉」の取扱いの始まりで、豚肉の購入単位や調理法、価格への議論へとつながっていく。

食べもの本来の価値を追求する

平田牧場の豚は、ランドレース・デュロック・パークシャアの三元交配種。パークシャア種（黒豚）は、繁殖率の低さや飼料効率の悪さなどから一般では敬遠されていた。「おいしい肉」を追求していた生産者の熱意と努力、生活クラブとの提携が、新たな品種開発の実現につながっていく。





**1981年**  
7年の歳月をかけた  
「**「**豚**」三豚**」を  
日本の米胃と平田牧場三豚  
**開発!**



自主運営・自主管理を意識する  
生産者を招いて豚の解体学習会

注文単位の検討  
K&Jの70-70-70  
生活クラブは一本で行く!

さらに生産者とのやり取りは続く...

平田牧場  
大手スーパーとの取引をやめる

部内での調理  
部単位で注文  
部単位で調理  
部単位で調理

生産者と組合員が価値観や課題やリスクを共有して理想が実現できるんだね!

**2018年**  
(株)平田牧場  
飼料用米活用畜産物ブランド日本一  
**農林水産大臣賞 受賞!!**

**1992年** 飼料用トウモロコシのPHF化  
**1996年** 飼料用米給餌実験開始!  
**1998年** 飼料トウモロコシ・大豆粕の遺伝子組み換え対策  
**2009年** 全頭に飼料用米給餌



平田牧場では、市販の豚よりも20日程度飼育期間が長く、飼育環境や飼料にもこだわっている。そんな「生産効率」の悪さを、「一頭飼」という「消費効率」をあげる方法や「生産原価保障方式」という価格設定で補い、共同購入を実現してきた。

**情報公開と「持続可能な生産と消費」推進制度**

輸入飼料のポストハーベスト(収穫後農薬)や遺伝子組み換え作物、TPPによる輸入自由化など、消費材にはその都度新たな課題が出てきて関心も広がり、終わりが無い。生活クラブでは、組合員と生産者が話し合っって厳しい「自主基準」を定めている。組合員が生産現場を訪れ基準の達成度を監査する「消費材S&D点検」は単なる工場見学や交流ではない。生産者は、情報提供というレベルではない緊張感を持ち、原材料や製法、製造環境などを明らかにし、消費材のレベルアップをめざす。消費材とは、自分たちの必要な価値は何かをつきつめていくプロセスそのものといえる。